情報公開文書（複数施設研究用）

研究機関名：市立函館病院

承認番号	19206
課題名	溶血性尿毒症症候群の重症化予測スコア構築を目的とした多施設共同後ろ向き解析
研究期間	倫理委員会承認日～2027 年 12 月 31 日
研究の対象	2012 年 1 月 1 日から 2027 年 12 月 31 日の間に当院及び研究協力施設に入院加療した 18 歳以下の溶血性尿毒症症候群の患者さん。
利用する試料・情報の種類	■カルテから得られる診療情報（氏名は残しません。カルテ番号、生年月日、症状発現日、入院日、全経過の症状、合併症、治療内容、入院時、HUS 診断確定時血液検査（WBC, Hb, Ht, 血小板, PT, PTINR, APTT, D-dimer, Fibrinogen, TP, Alb, AST, ALT, LDH, BUN, Cre, Na, K, Cl, CRP, PCT, Ferritin,C3, C4, Ch50,尿検査定性,タンパク量)診断されたときの血液検査(同上） □手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：　　） ■血液　発症時から HUS 診断確定時までに採取した急性期血清 □その他（　　）
外部への試料・情報提供	■自施設のみで利用 □多施設共同研究グループ内（提供先：　　）（提供方法：　　） □その他（提供先：　　）（提供方法：　　）
研究組織	全国の施設から研究協力をうける。
研究の意義、目的	O-157 などの腸管出血性大腸菌は毒素を産生し溶血性尿毒症症候群(HUS)という疾患を引き起こします。自然に軽快する疾患ですが、しばしば重度の腎機能障害、呼吸障害、脳症などを合併し命を失う事もある病気です。この研究では、重症化するお子様と自然軽快するお子様を早期に見分けて治療に役立てるための情報収集をするための研究です。
研究の方法	研究はお子様の臨床経過（いつからどのような症状があったか、腎機能障害の程度、合併症、治療内容など)、および血液検査データを用います。また、血液検査後に残った微量の検体を追加の解析をする為に頂く事があります。情報や検体は主治医の先生から頂くだけで済みます。研究のためだけに検査を行なったり治療内容を変更して頂く事はありません。
その他	研究で得られた結果は各患者さんの利益となるものではないため、こちらからお知らせして追加の説明をさせていただく事はありません。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究への利用を拒否する場合の連絡先：市立函館病院小児科 研究責任者：酒井　好幸 北海道函館市港町 1 丁目 10 番 1 号 電話番号：0138-43-2000